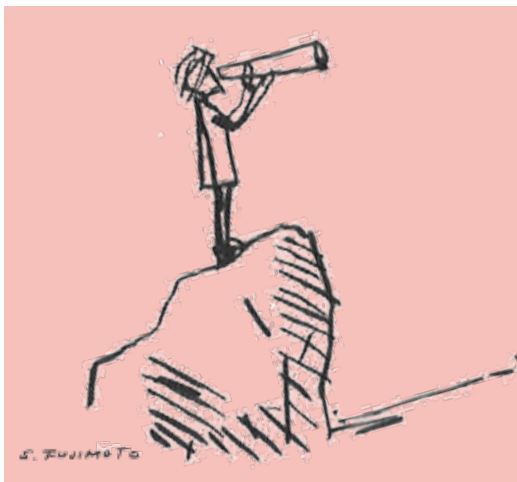


VISION

2023/2 KYOUAIKAI WORKS

312 Yoshihara Kagamino-cho,
Tomata-gun, Okayama-ken 708-0332
TEL 0868-54-0312 / FAX 0868-54-3418
https://www.kyouaikai.or.jp
E-mail:yoshino-hp@kyouaikai.or.jp

04



一般財団法人 共愛会

芳野病院 (0868)54-0312
 デイケアセンター ビーハウス
 老人保健施設 虹 54-3250
 訪問看護ステーションあおぞら 54-4084
 訪問介護ステーションヘルパー24 54-4324
 小規模多機能型居宅介護 気楽亭 54-5131
 住宅型有料老人ホーム ア・パレット 54-0312
 ケアプランよしの 54-5110
 デイサービスみもこころ 54-0101
 グループホーム 作楽 28-7110

共愛会で発生した3回のクラスター経験からのビジョン



2022年4月7日～25日
芳野病院3階療養病棟入院患者/スタッフ 計26名

第1回目クラスターは、2022年4月7日から25日までの18日間、芳野病院3階医療療養病棟スタッフ（看護、介護職）入院患者を中心に、病棟内で患者のリハビリを行っていたセラピスト、調理師に加えて託児室保育士、利用していた職員の子ども合計28名の感染者が発生したクラスターであった。内訳は同病棟で勤務していた看護職22名中6名、介護職18名中2名、セラピスト16名中2名、医事課2名、メディカルソーシャルワーカー5名中1名、栄養科37名中1名、託児室保育士4名中2名、職員の子ども3名であった。

最初の2日間で15名の感染者を確認し、直ちにゾーニングを行い、4月9日には初めて岡山県新型コロナウイルス感染対策室のOCIT・メンバーからの感染対策指導を受けた。同日にも4名の入院患者の感染が確認され、患者への拡大を阻止するための様々な対策を講じた。

4月10日3階職員、医事課、リハビリスタッフ、メディカルソーシャルワーカー、託児室利用者全てのPCR検査を行い、翌日検査結果でさらに職員10名の感染を確認。12日、15日にそれぞれ1名確認の後は繰り返しPCR検査を行うもすべて陰性であった。

感染者の療養期間も順次終了し、職員も復帰した4月25日にクラスター終息宣言を行なった。

2022年12月3日～2023年1月4日
老人保健施設虹利用者/スタッフ 計34名

第2回目のクラスターは、老人保健施設虹入所フロアで発生。2022年12月3日、入所職員1名の感染確認後、利用者への感染が危惧された。12月12日には入所者4名感染し、共愛会 COVID-19 対策委員会によりクラスター発生を宣言。

翌13日さらに入所者8名の感染を確認。その後20日までに入所者6名、職員も7名が感染。入所者39名のうち計20名、職員78名のうち計14名という多数の感染者を出した。

当然ケアを担う職員が不足。そのため法人内事業に応援を要請。芳野病院の感染病棟勤務経験がある看護師、小規模多機能施設 気楽亭 より感染対応の研修を終えていた職員らが、PPEを身に付けてレッドゾーンの居室に入り入所者の看護介護を精力的に行なった。

12月31日、最後に陽性となった入所者1名が療養解除となり、年が明けた1月4日にクラスター終息宣言を行なった。幸いなことに感染した利用者、職員全員軽症で重度化に陥ることもなく死亡者もなかった。

2020
 1月15日 中国湖北省から帰国した神奈川県在住の中国人男性の感染を確認（国内初確認）
 2月13日 国内初の死亡者確認
 3月11日 世界保健機構（WHO）がパンデミック認定
 3月24日 東京五輪・パラリンピックの開催延期を発表
 3月27日 安倍晋三首相が全国一斉の臨時休校を要請
 4月7日 東京都他7都府県に初の「緊急事態宣言」
 4月16日 岡山県を含む全国に「緊急事態宣言」
 5月12日 「緊急事態宣言」岡山県含む39県解除
 5月25日 「緊急事態宣言」東京都他全国解除

コロナ禍クロニクル

2021
 1月8日 2回目の緊急事態宣言
 2月17日 医療従事者のワクチン接種先行スタート
 3月20日 東京五輪・パラリンピックの海外観客の受け入れを断念
 7月23日 無観客で東京五輪開幕
 9月30日 4回目の緊急事態宣言解除（これ以降の発令なし）
 11月30日 オミクロン株、国内で初確認

2022
 7月14日 国内累計感染者数1000万人突破
 8月19日 第7波ピーク 1日の感染者数が過去最多26万1943人
 9月9日 国内累計感染者数2000万人突破
 9月26日 感染者数の全数把握の簡略化
 10月11日 水際対策大幅緩和

2023
 1月6日 国内感染者数3000万人突破
 1月11日 1日当たりの死亡者数初めて500人超に



データから見た共愛会 COVID-19

共愛会 / 芳野病院で行なった COVID-19 ワクチン接種



芳野病院接種スタート
2021年3月11日(木)
 法人職員60人

年別接種回数

	2021年	2022年	2023年
芳野病院接種 (介護事業所・訪問含む)	3,578	4,188	92
鏡野町集団接種 (芳野病院担当)	1,685	1,539	170

(回)

職域接種（会場：美作大学）
2021年7月/8月 2,985回

共愛会における COVID-19 感染症 受け入れおよび感染状況

発熱外来件数

	2021年	2022年
1～3月	24	53
4～6月	23	68
7～9月	45	337
10～12月	19	337
計	111	795

(人)

感染患者数

受け入れ数	45
クラスターによる患者数	27
合計	72

* 2022/10/31～2023/2/14 (人)

感染経験率の試算

共愛会職員（感染経験者/職員数）	95人 / 317人	(約30%)
岡山県（累計感染者/人口）	483,413人 / 1,858,269人	(約26%)

* 2023/2/14 現在（複数回感染も含む）

3 2023年1月4日～23日 芳野病院2階一般病棟入院患者/スタッフ 計22名

第3回目のクラスターは、老人保健施設虹のクラスターの終息宣言を出して安堵した同日の2023年1月4日に芳野病院2階の一般病棟に発生。

新年互礼会の席でクラスター宣言を行ない、COVID-19 ウイルス感染症との戦いの場が移ったことを共愛会全職員に伝えた。

1月4日から5日にかけて2階病棟勤務の2名の職員及び入院患者6名が相次いで抗原検査で陽性となり、検査対象を拡大し5日夕方までにさらに7名の患者が感染していることが判明。多床室はほぼ全員が感染していることが判明。患者は高齢で治療中の疾病を有すハイリスク感染者とし、重症化防止を目的とした抗ウイルス剤パキロビット内服、くすりが飲めない患者にはゼビュディ点滴を直ちに行った。

1月6日から12日にかけて検査をするたびに入院患者の合計6名の感染が判明した。病棟全患者の内、感染者合計17名に達した。西病棟10室のうち8室をレッドゾーンと設定し、コホーティング（感染者同士の大部屋）に準じ感染者を療養管理下においた。全員の胸部CT検査でウイルス性肺炎は認められず、持病の悪化で酸素吸引した患者8人を中等症とした以外は軽症と診断した。10日間の療養期間内で重度化に陥った患者は無かった。

また明らかに院内感染を余儀なくされた2階病棟職員は、3名の看護師と2名の介護士の5名で、幸いにも数日の間において判明したため、マンパワー不足には陥らなかった。いずれも軽症で元気に職場復帰がなされた。

クラスター期間内でゾーニングと職員の感染拡大防止策の徹底されたクラスター発生7日目以降に、2階フロアに20名の入院患者を受け入れた。グリーンゾーンの地域包括ケア病室に2名、一般病室グリーンゾーンに13名、レッドゾーンに受け入れた自宅及び介護施設からの感染者5名であった。入院時に感染者であることが判明していた患者は1名が特別養護老人ホーム、3名がクラスターのグループホームからでいずれの患者も摂食障害で輸液治療が必要な患者であった。

1月22日までに院内感染の全患者は療養期間が解除。介護施設からの2名は1日、2日の療養期間を残していたため、本来の行政から指定されている感染者療養室に移した。その日1月23日クラスター終息宣言を発した。

クラスター経験から病院・施設のウィズ・コロナについて考える

- 病棟および入所フロア-職員、入院患者、入所利用者に1人でも感染が判明した時にはクラスターに発展することをイメージしておく。法人全職員に対して、それぞれの感染症対策のイメージトレーニングとシミュレーションを推進する。
- クラスターの可能性があれば、迅速にその日のうちに的確なゾーニングを行ない、接触感染対策、飛沫感染対策、エアゾール対策、PCR・抗原検査の実施と次の検査計画を立てる。
- クラスターの可能性があれば、全職員は感染防御、感染を拡大しない方法を再度チェックし実践する。

- 第3クラスターでは、発生後約一週間は混乱したが、コホーティング（感染者同士の大部屋）等での対応し、安定した管理体制が軌道に乗った以降、レッドゾーンに他施設等で感染した患者の受け入れ、グリーンゾーンへの非感染者の入院受け入れが可能であった。
- 職員の院内感染も、適切な個人防護具の着用、手指消毒等の標準予防策をとることに加えて、他のフロアへの移動、人的交流の自粛、3密の回避等で少なく抑えることができた。一方第1クラスター、第2クラスターの際には、混乱して多数の職員の感染を経験し、徹底した感染防御面の課題を残した。
- リハビリテーションを担うセラピストの介入。レッドゾーンでの業務を継続することを前提にした感染者の療養期間中のADL等の低下、認知症の進行等の要因の調査を開始している。
- 病院、老人保健施設でのクラスターで、介護職もレッドゾーンで患者、利用者のケアに就いた。今後、多職種チームの感染者へのアプローチで、感染者への治療、ケアの継続と医療者への負担の軽減を図る。
- 保健所の指導は8波では少なく、現場の判断が優先された。
- 保健所の指導で検査の迅速性でPCRより抗原検査を薦められた。
- オミクロンの特徴である潜伏期間が短く、感染力や広がりやすさが高い。加えて免疫逃避の能力が高まったためか、瞬時に多数の同時感染を経験した。
- 感染はしたものの、重症化を予防する効果として、ワクチン接種（5回）は有効であったと思われる。
- 有効性よりラゲブリオよりパキロビットの投与を行なった。経口投与が出来ない患者にはゼビュディ点滴薬を使用した。また経管で栄養補給されていた患者への投与は、パキロビットは粉末不可であるため脱カプセルして粉末で使えるラゲブリオを投与した。
- 禁忌薬の調査は、薬剤師が行なった。
- クラスターが発生した他の施設、グループホームや特別養護老人ホームからの抗ウイルス薬パキロビット処方の際に、血液検査成績での腎機能を把握したかったが、未検査であったためクスリ半量投与を余儀なくされた。
- 新型コロナウイルス感染症に罹患し、急に重篤な状態に陥るかもしれない。その時医療現場での短い時間内で患者の意思を推測することは困難であるため、ACP（Advance Care Planning）人生会議の開催を推進する。
* [ACPの定義：人生の最終段階の療養やケアについて本人、家族や信頼できる人と医療・介護従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス。]
- 「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き」最新版を常に参照する。

国・各機関への要望～BCP策定へ

- 国は今後の医療機関、高齢者施設のクラスター対策について最新の知見に基づいた、より具体的な指針が示されることを望む。それを受けて岡山県医師会、岡山県病院協会、岡山県老人保健施設協会等で協議を。
- このままでは、医療機関、高齢者施設のクラスター発生のリスクはさらに高まるのでは危惧する。
- 新型コロナウイルス感染症におけるBCP（Business Continuity Plan）が重要になる。クラスターになっても、経営あるいは運営を継続しなければならない。

新型コロナウイルス感染症等の感染症発生時においても、医療、介護サービス提供に必要な人材を確保しつつ感染防止対策の徹底を前提とした継続的なサービスが求められ、それに答える必要がある。クラスターの経験を活かし新型コロナウイルス感染症に対し臨機応変な運営を行なうため、業務継続計画BCP策定が急がれる。

第2回

共愛会における新型コロナウイルス感染症及び ACP に関する意識調査

2023年2月中旬の現在、COVID-19感染症の第8波もようやく終息に向かいつつあるように思われます。2022年を振り返ってみますと1月から3月下旬の第6波、7月上旬から秋までの第7波、11月には第8波が到来。年末年始にかけてピークを迎えました。

これらの波は、2021年11月24日に南アフリカから報告された新型コロナウイルス変異株の1種オミクロン株によるもので、重症化率や致死率が比較的低く、夏季と冬季にピークが見られたのも特徴的でした。

この度、第8波の最中に第2回目の「共愛会における新型コロナウイルス感染症及び ACP に関する意識調査」を行いました。第1回目の調査は、第1波が収まった2020年5月に行っています。2年半の間に COVID-19 感染症に関する様々な研究、知見が全世界規模で成され、ワクチン接種、治療薬の開発と繋がっています。また感染症に対する私たちの行動変容も柔軟に行なってきました。

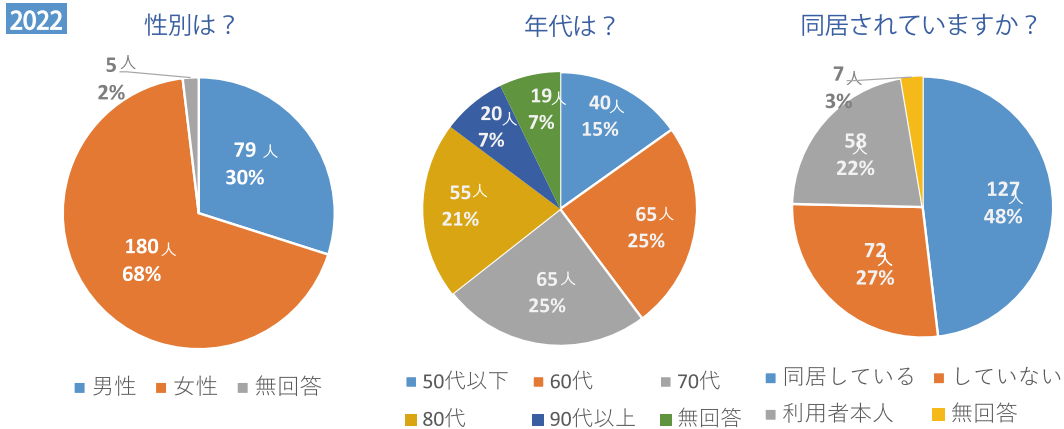
COVID-19 感染症を取り巻く状況の全く違った時期に、2回「意識調査」が出来たことは大変意義のあることと考えています。今後、当法人による医療介護事業運営におけるクラスター防止、BCP策定から面会の方法、コミュニケーションの復活、ACPなどの課題を解決するための参考にさせて頂きたいと思っております。ご協力いただきましたみなさまに心より感謝いたします。

一般財団法人 共愛会 理事長 藤本宗平

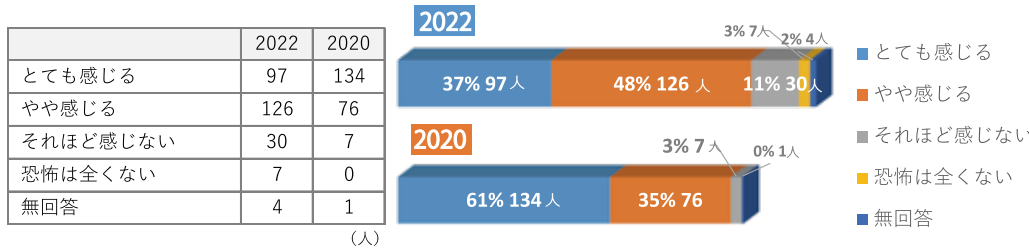
対象者： 共愛会 患者さま・ご利用者家族 **期間：** 2022年11月21日～12月28日
配布数： 340人 **回答数：** 264人 **回答率：** 77%
対象者サービス区分： 芳野病院 一般病棟 19人 療養病棟 29人
 介護事業所 虹入所 26人 その他事業所在宅 190人

対象者： 共愛会 患者さま・ご利用者家族 **期間：** 2020年5月11日～5月31日
配布数： 380人 **回答数：** 218人 **回答率：** 57%

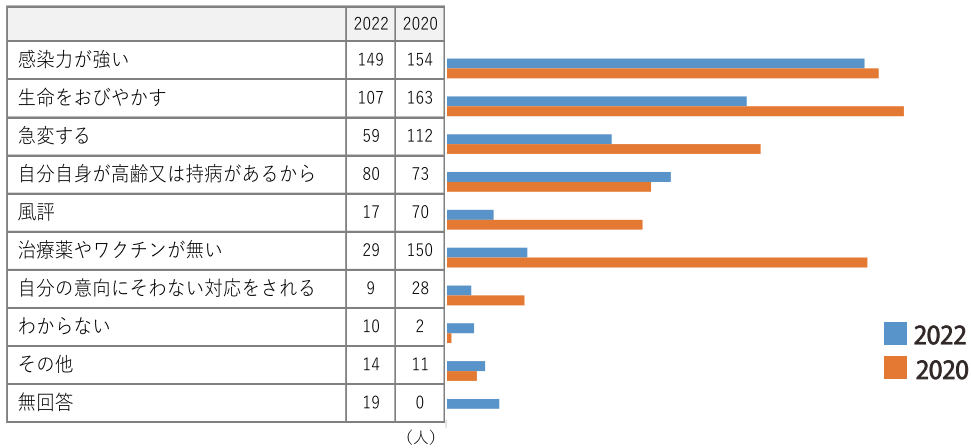
◆アンケートに回答されている方のことについて教えてください。



問1 新型コロナウイルス感染症 に対する 恐怖を感じますか？

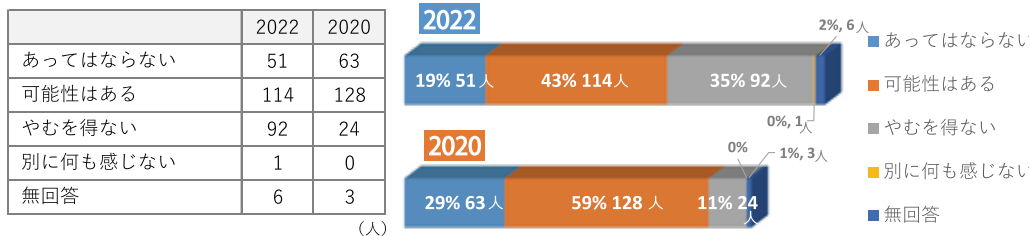


問2 新型コロナウイルス感染症 に恐怖を感じる理由は？ (複数回答可)

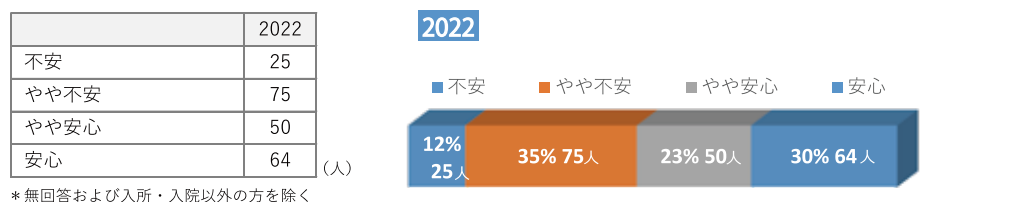


<考察 問1・問2> 新型コロナウイルス感染症という得体の知れないウイルスに直面した第1波直後と、治療方法や対処方法が明確になってきた第8波との意識の変化が読み取れます。

問3 院内感染、施設内感染が全国で起こっていることを、どのように感じられていますか？

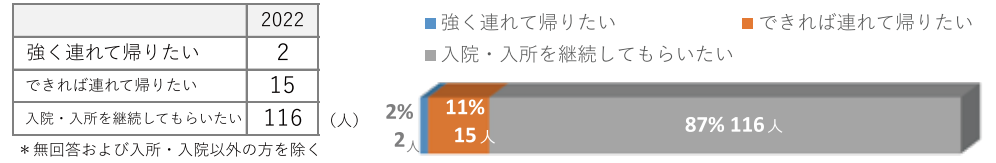


問4 ご自宅・ご家族から離れていることについてどのような気持ちになりますか？



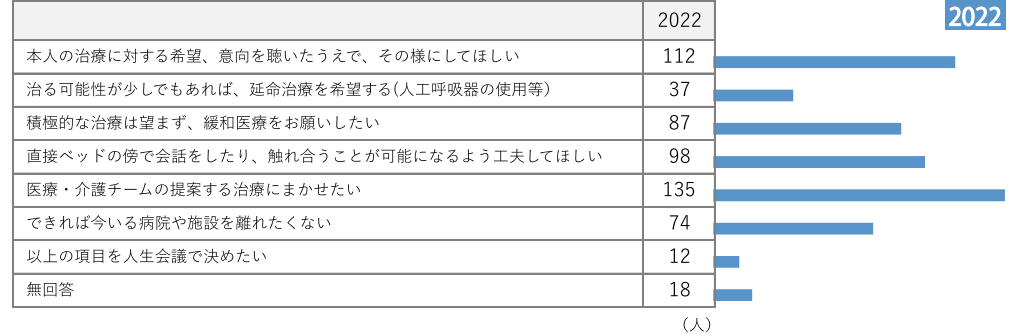
* 無回答および入所・入院以外の方を除く

問5 新型コロナウイルス感染症が流行している状況で、できるならばご自宅に連れて帰りたいと思われますか？それとも、サービスを引き続き利用したいと思われますか？ 2022

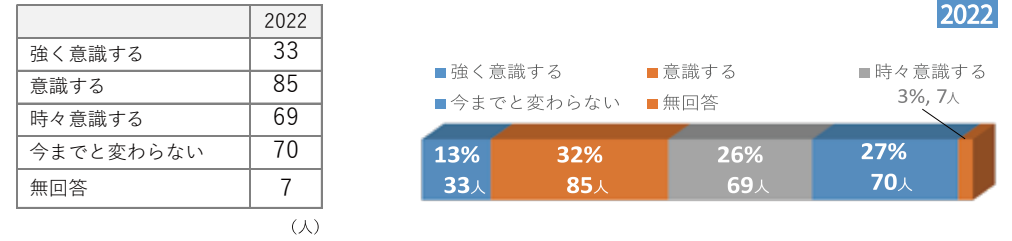


<考察 問3・問4・問5> 院内感染、施設内感染については、ある程度やむを得ないことであると考える人が増えています。これは治療方法の確立や情報が得やすくなったことなどが影響していると考えます。介護サービスの利用については、2020年も2022年も継続して利用したいとの回答が多く、介護サービスの利用が生活の一部となっており、それを変えることはできない様子が伺われます。

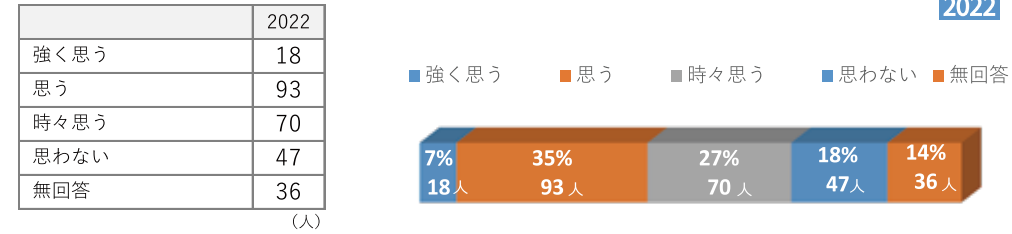
問6 新型コロナウイルス感染症に感染した時は、病状に合わせた治療が行われます。入院、入所、デイサービスを利用されている方がもしも重篤な状態になったことを想定するとしたら、何を大事にしたいと思いますか？ (複数回答可) 2022



問7 新型コロナウイルス感染症が長期化しているなかで、ご自分も含めご家族の死を、今まで以上に意識したことがありますか？ 2022

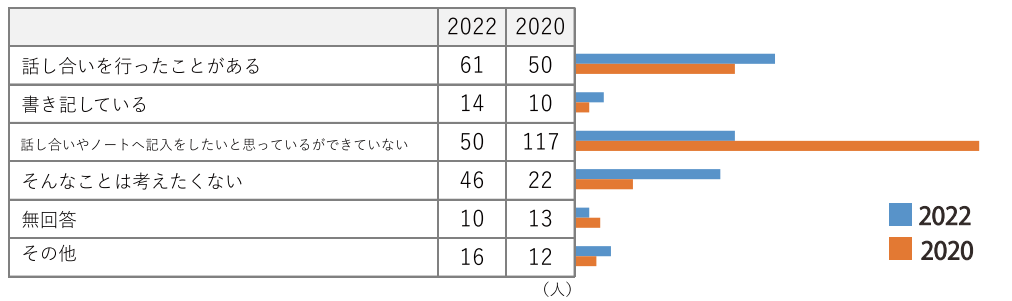


問8 新型コロナウイルス感染症の拡がりのなかで、入院、入所、デイサービスを利用されている方の「お気持ち」をお聞きになりたいと思いませんか？ 2022

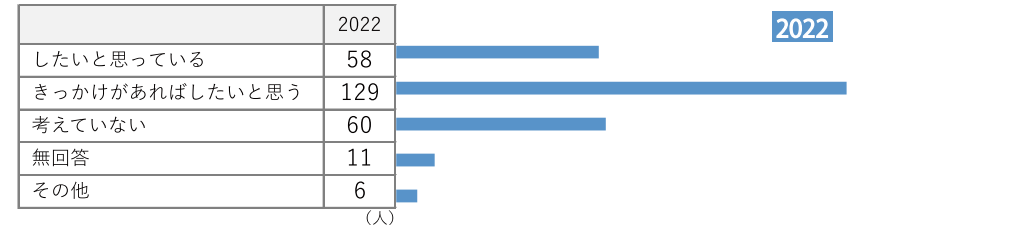


<考察 問6・問7・問8> 新型コロナウイルス感染症では、重篤な状態になることが想定されます。この流行が、ご自分も含めた家族や大切な人が何を大事にしているのかを意識するきっかけになったのだと考えます。質問を通して、高齢者、認知症患者、利用者へ思いを馳せ、本人の気持ちを聞くこと、自分の想いを伝えることの重要性を認識されたものと思われます。

問9 「人生会議」とは、自分で自分のことが伝えられなくなったときに備えて、信頼できる家族等と医療者などと、自分の希望する医療や介護についてあらかじめ話し合いを行っておく取り組みのことですが、今までに、そういった、自分の今後について話し合いを行ったり、何か書き記しておいたことがありますか？ (複数回答可)



問10 新型コロナウイルス感染症は、感染すると重症化する可能性もある病気ですが、この3年間で、医療現場でも「人生会議」をしておくことの重要性が叫ばれています。「人生会議」をしておきたいと思われますか？



<考察 問9・問10> 3年間のコロナ禍で「人生会議」開催の意義を感じられている人々は増えているのだからと感じます。一方考えたくない人の気持ちも尊重しなければなりません。「人生会議」の開催について、私たちも啓発活動を継続していきたいと思っております。

〈統括〉2020年5月に行った第1回共愛会における新型コロナウイルス感染症及び ACP に関する意識調査と比較すると、新型コロナウイルス感染症に対する恐怖感はずっとあるものの、治療方法や対処方法が明確になってきたことによって、共生している現状 (with コロナ) に慣れてきたのではないかと考えられる。人生会議については、「話し合いやノートに記入したいができていない」人の割合は2020年と変わらず多い。しかし、今回「人生会議をしておきたいか？」との問いに7割の人が「したい」「きっかけがあればしたい」と回答している。このことから「人生会議」という言葉がある程度浸透していることが伺え、今後の課題として「人生会議をしたい」と思っている人に、きっかけを提供する場や雰囲気づくりと人生会議がより身近になるような活動を進めたいと考える。

(芳野病院 一般病棟 師長 小倉 玲子・芳野病院 地域連携課 課長 萩原 仁美)